

KIYOSHI KATUI

勝井清史

勝井鍍金 代表

2017年度大阪
テクノマスター
OSAKA TECHNO MASTER

プレスしても割れない!ウチのスゴイところです!

日本の記念メダルを光らせる

きっと誰もが一度は目にしたことがあるだろう。観光地に行くと、お土産として売っている記念メダル。日本国内で見かけるメダルの大半を作っているのが、大阪市住吉区にある「茶平工業(株)」さん。茶平工業(株)さんのメダルのめっき加工を請け負っているのが、勝井鍍金だ。

“タコ”でメダルを作ってる

勝井鍍金の工場の天井からは隙間なく“タコ”が吊り下がっている。「何枚ものメダルに同時にめっきを施すための治具のことを、たくさん足があることから『タコ』と呼んでいます。」その種類と数の多さには目を見張る。「めっきするもの大きさによって“タコ”を変える必要があるんで、今ではこんなに種類が増えています。」

全国各地に送り届けられるメダル作りの一端を担っている。今日も平野区の片隅でおどろくほどたくさんのメダルが次々とできあがっていく。

やりがいは、難しいこと

同社には、メダル以外にも他社では難しい丁寧なめっき加工が求められる依頼が舞い込む。先代から受け継いだ特異な技術を守りながら、さらなる生産性向上や新たな加工法の開発に向け、日々挑戦を続けている。電気めっき加工は、プラスからマイナスに流れる電気の性質を利用して、治具に付けた材料(メダル等)に、金やニッケル等の金属を付着させ、めっきを施す。「算数みたいに、1+1=2っていうわけには、すんなりいかない。本当にもうどうしたらええんやろって、常々試行錯誤してます。めっきは、ちょっとした液の状態や液温などにも影響され、最適な方法を見つけ出すため、日々の作業工程は同じでも、気は抜けません。毎回うまくいくような「これだ!」という答えを導き出すのが難しい中、うまくいった瞬間が本当に嬉しい」と笑顔で話す様子から、勝井氏の仕事に対する思いが伺える。

“めっき”

めっき加工とは、金属やプラスチック、ガラス、繊維等のさまざまな物質の表面を、金や銀、クロム、ニッケル等の薄い金属膜で覆うことをいう。用途や材質に応じて、電気めっきや無電解めっき等いろいろな処理方法がある。ものの表面を美しく装飾するだけでなく、サビや磨耗を防ぐなどの機能性を持たせることにも使われる。気づいていないだけで、身の回りの電化製品や装飾品から、産業用機械、はては宇宙機器にまで施されているのだ。「めっき」は、我々の日常生活やものづくり産業をこっそり支えている欠かすことのできないものだ。

勝井氏は、その中で電気めっきを用い、キラリと光るメダルや重厚な質感のドアノブなど、「装飾めっき」を施している。凹凸のないメダルに、金やニッケルのめっき加工を施し、その後さまざまな図柄や文字をプレス加工する。「100トン以上ものプレスで力が加えられても、割れない」と勝井氏は語る。



楽しみにしてくれる人たちのために作り続けたい

最近では、記念メダルは訪日外国人旅行者のお土産の定番の一つにもなっている。「楽しみにしてくれる人たちがいてくれるので、作り続けたいですね。2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会、その後は大阪万博がくれば、これからもっと忙しくなると期待しています」と勝井氏は語る。

チャレンジすること。それは絶対ムダにならない!



<他社ではできない「めっき加工」>

父の代から数えると50年余りの歴史を誇る勝井鍍金の代表である勝井清史氏。勝井氏は、手付けの装飾用電気めっきを生業とし、めっき加工後にプレスしても割れないニッケル-金めっきを、記念メダルに施すなど、高い技術を有する。また、勝井氏は大阪府鍍金工業組合の技術委員長を務め、同組合の中でも頼られる存在だ。電気鍍金技能検定においては、実技試験の検定委員としての経験を持っている。自身も、電気めっき技能士1級の資格を有している。

■所属企業概要

勝井鍍金 事業内容:電気鍍金加工
〒547-0002 大阪市平野区加美東3丁目3-22
TEL:06-7174-0166/FAX:06-7174-1739

